

中東工科大学（トルコ）等の研究者が訪問されました(2017/8/14)

場所：災害科学国際研究所
テーマ：津波、防災、国際連携

平成 29年8月，津波研究で世界的に活躍されている著名な Ahmet C. Yalciner 教授（中東工科大学、トルコ），Ceren Ozer Sozdinler 博士（ボアズィチ大学、トルコ），有川太郎教授（中央大学）等のグループが，宮城県，岩手県の東日本大震災被災地を視察されたのを機に，当研究所を訪問されました．災害リスク研究部門のサッパシー・アナワット准教授とマス・エリック准教授がそれぞれの分野の活動を紹介し，2016年福島県沖地震津波，世界津波の日，津波避難研究，津波警報，災害被害把握等，最近の研究成果について紹介しました．トルコ側からは7月20日に発生したトルコ・ギリシャでの地震津波の調査，数値解析の報告があり，当研究所教員と津波警報，住民の避難行動，メディアによる報道について議論・意見交換を行いました．その後，サッパシー准教授が仙台市の津波被災地である荒浜地区を案内しました．旧荒浜小学校，荒浜海岸にある新しい防潮堤，津波避難タワーを視察し，東日本大震災からの復興，津波防災研究について意見交換をしました．



当研究所での意見交換会の様子



仙台市津波避難タワー訪問の様子

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）